

## ①病院受診への促し方

病院受診に関して“どのように病院受診を促したらよいかかわからない”というご相談も多くいただきます。一般に病院のイメージは「病気になった時にいくところ」「悪いところを治療してもらおうところ」といったものと思います。

しかし、発達障がいは悪いものでも、治すものでもありません。発達障がいの場合は、障がい特性を知る一歩として病院受診があると考えます。診断や検査は、ご本人や周囲の人が障がい特性について理解し、生活しやすくするために、どのような工夫やサポートが必要なのかを検討するための材料のひとつと言えます。

“悪いところを治すため”というよりは、“自分（本人）のを知るため 生活しやすくするため”と捉えてご本人にも同様に説明していただくと、病院受診後（診断後）の本人の発達障がいに対する捉え方や周囲の考え方がポジティブに向かう場合が多いように感じます。病院受診の際にはご本人の理解に合わせて病院受診の目的の確認をしておくことをお勧めしています。

## ②発達障がいの自覚がない！？

### 本人が受診を拒否するときは？

特に学齢期後期～成人期の方のご家族から相談が多い内容として「本人に発達障がいの自覚がない場合どう医療機関につないだらよいか」「本人は困っていないが、周囲が困っているので医療機関を受診させたいが、本人は受診を拒否している」といったものがあります。ご家族は、ご本人の状況が心配ですから、受診をして、早く対応をはじめたいお気持ちは当然だと思います。

では発達障がいかもしれない、病院へ行こう、と言われたご本人の状況はどうでしょうか。ご本人のお話をじっくり具体的に聞いていくと、実際は困っていたり、気づいていたりすることも多いけれど、受診への不安から、ご家族に対しては「困っていない」「自分はできている」と言ってしまうパターンもあるようです。

そういった場合に無理に病院受診を勧めると、ご本人は「あなたが普通じゃないから、病院に行きなさい」というマイナスのメッセージとして受け取ってしまう場合があります。マイナスイメージでの病院受診となると、その後の工夫や支援の受け入れ、障がい受容が難しい、というケースもあります。

一方で、受診はしていないけれど、ご家族が発達障がいについて知り、ご本人への関わり方を工夫されたことでお互いの困り感が減り、家族間のコミュニケーション取りやすくなって、医療機関の受診にスムーズにつながっていく方もおられます。医療機関ではなく、ご家族が相談機関に相談し、発達障がいについて具体的に知ることから始めるのもやり方のひとつです。